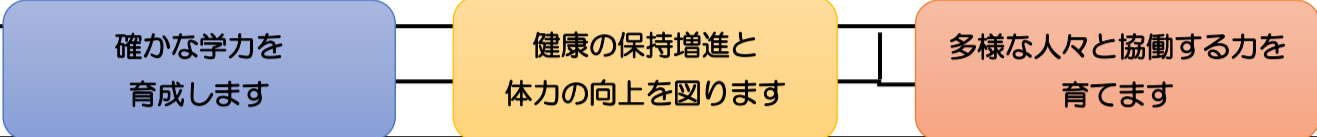


令和4年度 横須賀市立 豊島小学校 学校重点プラン兼学校評価報告書

学校長名	鈴木 由美子	職印	学力向上担当者名	野田 篤秀 ・ 嶋原 佑花
			学校評価担当者名	小濱 和道

1. 学校重点プラン・自己評価の結果



	重点1	重点2	重点3	学校独自の重点
重点目標 (中・高学年)	○対話の質を高め、主体的に学ぶ力を育てる。	①授業中だけでなく授業外でも、自ら運動に親しもうとする子どもを育成を図る。  ②chromebook やゲームとのつきあい方を考え、睡眠・運動などの生活習慣を整える。	○認め合い協力する心を育てる。	○コミュニケーション能力を高めるために、基盤となるあいさつを進んでできる態度を育てる。



具体的な取組	<p>《低学年》 相手の考えに興味をもち、自分の良さに気付くことができるようにする。</p> <p>《中学年》 相手の考えを肯定的に聞き、意図を考えたり、自分の考えに自信をもったりできるようにする。</p> <p>《高学年》 自ら疑問をもって仲間と交流したり、問いを立てて仲間と解決したりできるようにする。</p> <p>○教師が児童の対話方法を工夫する。 ・対話の質が深まるように相手の考えを引き出すような質問をしたり、共感的に聴いたりできるようにする。 ・対話の手段として授業内でホワイトボード、付箋、chromebook などを使用し、ワークショップの手法を取り入れることで効果的な意見交換を促す。</p>	<p>① ○運動環境を整える ・休み時間に使える教具の整備 ・縄跳びの購入希望調査 ・自発運動を促すカード作成と配布（縄跳び・鉄棒など）</p> <p>○体育委員会児童による働きかけ ・運動に親しんだり、体力向上につながったりするような企画。</p> <p>○教材教具の更なる充実 ・年間指導計画に合わせた教材教具の準備 ・手立てとして使える道具の購入</p> <p>② ・児童健康委員会の取組みを継続し、保護者と連携して生活習慣について考える。 ・ブロックごとに携帯安全教室を開催する。（市P協に講師依頼） ・ほけんだより等で啓発する。</p>	<p>① ○校内研究サブテーマを意識して、授業や学校生活全般で中間の存在や考え方を認めることを意識した指導を継続する。 ・支援指導委員会、ブロック会議等を活用し、情報共有・共通理解をもとに取り組む。 ・良いところは褒めて共有し、課題については考えさせて具体的な行動に繋げる。</p> <p>○たてわり活動や異学年との交流、学校行事を通して認め合う意識を促す指導を継続する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつに更にひと言の声かけを大人がモデルとなり積極的に行う。</li> <li>・児童委員会の活動を通して、児童が主体的に挨拶への意識を高める。</li> <li>・朝会等であいさつの必要性を伝える。</li> <li>・学年や学級でも定期的にあいさつについて考える時間を設ける。</li> </ul>
検証の時期と方法	<p>【実現状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケートにて「自分の考えを相手に伝えたりノートなどに書いていたりしている。」の項目が昨年度の数値を上回っているか。</li> <li>・職員アンケートにて「chromebook やホワイトボード、付箋を使用し、対話方法を工夫しているか」の肯定回答率がどれくらいあるか。</li> </ul>	<p>【実現状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①児童アンケートにて「授業中だけでなく休み時間や放課後にすすんで体を動かしている」の肯定回答率が前年度を上回っているか。</li> <li>②メディアコントロールチャレンジの振り返りにて、実施前後でメディアを使用しない空き時間の過ごし方に変化が見られるか。</li> </ul> <p>学校評価アンケートにて「早寝・早起き」「メディアとのつきあい方」の肯定回答率が前年度を上回っているか。</p>	<p>【実現状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価アンケートにて「相手がうれしくなるような言葉を使っている」「友だちと力を合わせている」の肯定回答率が前年度を上回っているか。</li> <li>・たてわり活動、キャンプ、修学旅行などで認め合い協力する姿勢が見られるか。</li> </ul>	<p>【実現状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価アンケートにて「自分からあいさつをしている」の肯定回答率が前年度を上回っているか。</li> <li>・学校運営協議会や見守り隊の方々からの評価が肯定的か。</li> </ul>

	<p>【検証方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケート、保護者アンケート、職員アンケートの3つに関連項目を加え、比較・分析する。</li> <li>・職員が授業内で児童の様子を見取る。</li> </ul>	<p>【検証方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①児童アンケート</li> <li>②メディアコントロールチャレンジ実施後の振り返り、学校評価アンケート</li> </ol>	<p>【検証方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各行事の反省に関連項目を加える。</li> <li>・支援指導委員会での情報共有</li> <li>・学校生活アンケート、学校評価アンケート（保護者・職員）など</li> </ul>	<p>【検証方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価アンケート、保護者・地域の方の声を聞き取る。</li> </ul>
<p>検証結果・成果と課題</p>	<p>【取組状況】</p> <p>○児童が自分の考えを整理し、表現しやすくするために chromebook やホワイトボードを用いた。また、話し合い活動ではペア、グループの対話人数やメンバーを意図的に設定したりした。</p> <p>○家庭学習から主体的に学ぶ姿勢につなげようと、各学年で児童の実態に応じて「自主学習」に取り組んだ。また、保護者の理解も得られるよう「学力向上通信」も配布した。</p> <p>【達成状況】</p> <p>○職員アンケート「授業でホワイトボード等を用いた対話の工夫をしているか」の肯定回答率が100%となった。</p> <p>○児童アンケート「自分の考えを相手に伝えたりノートなどに書いたりしている」の肯定回答率の数値が昨年度より2ポイント上回った。(79%→81%)</p>	<p>【取組状況】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①・各学年の年間指導計画に合わせた教材教具の購入、縄跳びの購入希望調査を行って一括購入(今年度は1年生のみ)し、運動しやすい環境づくりに取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育委員会主催の低学年向けスポーツ教室、縄跳び鉄棒週間、マラソン週間などを企画し、実施した。</li> </ul> </li> <li>②・健康委員会でメディアコントロールチャレンジを企画し、冬休みに全校で実施した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・市P協の講師を招いて各ブロックごとに携帯安全教室を実施した。</li> <li>・ほけんだよりを児童が興味をもって読み、自分自身の生活を振り返られるように工夫した。</li> </ul> </li> </ol> <p>【達成状況】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① <p>○児童アンケートでは、「授業中だけでなく休み時間や放課後にすすんで体を動かしている」という項目に対し、81%の児童が肯定的回答をしており、昨年度より6ポイント向上が見られた。</p> <p>○体育委員会の取組に多数の児童が参加し、取組の有効性も見られたが△一時的なもので継続が見られないこと、学年による参加状況の差があることが課題である。</p> <p>△予算の都合もある中で、教材教具等の環境整備をいかに行っていくかも課題として残っている。</p> </li> <li>② <p>○児童アンケートからは、「家庭での約束を守ってメディアを使用できる」が74%と概ね上手に使用できている。△ただ、保護者アンケートには同様の項目がないのですり合わせが出来なかった。</p> <p>○メディアコントロールチャレンジ実施により、家庭でのメディアとの付き合い方を考えるきっかけ作りになった。継続して取り組めるように、ほけんだよりや学級通信などでも呼びかけた。</p> <p>○携帯安全教室は、発達段階に応じて理解しやすいような内容に工夫されていた。児童自身が、ゲー</p> </li> </ol>	<p>【取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・たてわり活動などの行事の反省に「子どもたちの認め合う姿について」という項目を加えて、状況を分析した。</li> <li>・学習交流会や異学年交流を通して、友だちの良さを認められるように、学校生活全般の中で教職員が意識をして取り組んだ。</li> </ul> <p>【達成状況】</p> <p>○児童アンケートからは、「相手が傷くようなことを、言ったりしないように気をつけている」が93%、「学校生活の中で、友だちと力を合わせている」が95%、「困ったときに相談できる大人や友だちが学校の中にいる」が95%とお互いを認め合い協力することのプラス評価が高い。</p> <p>○たてわり活動が再開し、学年を越えての交流を通してお互いを認め合う機会が増えたことが高いプラス評価につながっている。</p> <p>○たてわり活動の職員反省では、「高学年がリードし、困っている子の声を親身に聞いている姿が見られた。」「積極的に反応したり、回答し終わった後には拍手をしたりして、認め合う異学年交流ができていた。」などの肯定的な意見が多い。</p> <p>○友だちと力を合わせたり、友だちを思いやって行動したりする姿勢が身につけてきている。</p>	<p>【取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組み位に関しては、おおむね行っているが、年間を通じて継続性が足りないため自発的なあいさつが児童に定着するまでには至っていない。</li> </ul> <p>【達成状況】</p> <p>○児童アンケートの結果からは、90%近い児童が「自分からあいさつをしている」という高い自己評価になっている。委員会のあいさつ運動や朝会の話などの影響から意識している児童が増えてきたように見える。</p> <p>△一方で、保護者や職員のアンケートからは、プラス評価が低めなので、「あいさつを進んでできる態度」の姿が児童と大人の間でギャップがあるのではないかと懸念されている。</p>

		ムやSNS等と、どのように付き合い合っていけばよいかを考えることができた。 △睡眠時間については、「早寝・早起きを心がけている」の児童アンケート結果（61%）と保護者アンケート結果（86%）に大きな数値の差があった。保護者と児童の捉える規則正しい生活習慣にズレがあるのかもしれない。		
課題解決 ・ 次年度 の 取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の中で「主体的な学び」という言葉の意味を具体的にし、それを高めるために必要な「対話」をさらに明確にする。</li> <li>・家庭学習では発達段階に合わせた系統性をもたせることで、より主体的な学びにつながるよう取り組む。</li> <li>・「自分の考えを相手に伝えたりノートなどに書いたりしている」の肯定回答率を上げるための手立てを検討する。</li> </ul>	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童委員会活動で運動習慣をつける取組、体力向上を図る取組を継続し、高学年の参加率を増やす工夫も児童と共に考えていく。</li> <li>・休み時間に自由に使用できる教具を増加したり、使いやすい環境整備をしたりして、日常的に運動に親しめるように働きかけていく。</li> <li>・教材教具の劣化等も見られるため、各学年の年間指導計画をもとに、より使いやすいものに買い替えていく。</li> </ul> <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童委員会活動でメディアコントロールの取り組みを継続していく。</li> <li>・児童の実態に合わせたほけんだよりを引き続き発行していく。</li> <li>・携帯安全教室は毎年実施出来るよう取り組む。PTAとも連携を図りながら、保護者向けの講習も開催できるとよい。</li> <li>・児童アンケートと保護者アンケートの項目のすり合わせを行う。</li> <li>・懇談会などを活用して、家庭での生活の様子を聞き取り、連携を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さらに認め合い協力する力を高めるために、自己肯定感の育成が大切であることを教職員間で共有する。</li> <li>・児童一人ひとりが学級の中での存在感を感じることを自己肯定感の育成につながるため、友だちに関心をもち互いに認め合い高め合おうとする取り組みを考え、ブロック会議や児童支援委員会等で共有していく。</li> </ul>	<p>【課題解決】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつを自発的にできることを継続できるようにしていく。</li> <li>・職員が目指す「あいさつを自発的にする児童の姿」の理解を共有し、その姿を児童にも共有する。</li> </ul> <p>【次年度の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どのような姿が「自分から自発的にあいさつできる」ということなのかを職員間で共有する。職員で共有した目指す姿を児童に伝える。</li> <li>・昨年度と同様に委員会や朝会、クラスなどで啓もう活動を継続していく。委員会でのあいさつ運動は年2～3回にできると良い。</li> <li>・道徳などであいさつの大切さについて扱う。</li> </ul>



## 2. 学校関係者評価の結果

<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価内容（次年度への方向性も含む）</li> </ul> <p>○重点目標の達成状況・取組状況やその適切さについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・概ね達成できている。</li> <li>・「主体的」というのはとても大切。指示待ちにならぬよう、子どもたちそれぞれが興味のあることを見つけて学んでいってほしい。</li> <li>・校内研究を教師全員で熱心に取り組んでいることを評価する。学習と生活は絡まっていくので、子どもたちの心情的な面を取り上げながら進めてほしい。</li> </ul> <p>○今後へ向けての改善方策について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活習慣を整えることは、学校での声かけもいいが、家庭なくしてはできない。家庭に協力を仰ぐ、学校の方針の理解者を増やしていけるといい。</li> <li>・学校・家庭・地域の協力を具体的に示して進めていく必要があると思う。</li> <li>・児童の自己評価で「自分からあいさつできている」というのは地域も含まれているのか疑問。子どもたちと地域の関係が希薄になっているが、それは大人の側に責任がある。学校だけの問題ではないので、地域の側でも考えていきたい。</li> <li>・年度の初めに児童各自が「今年のテーマ」を決めて年間を通して進めていくという方法もいい。</li> </ul> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケートの回収率が低かったことについて、アンケートの実施が認知されていなかったようなので、年度の早い段階から保護者に伝えていくとよい。</li> <li>・読書活動をぜひ推進してほしい。子どもが自分から読みたいと思う環境を作ってほしい。</li> </ul>
--

【学校関係者評価を行った時期と回数】	【学校関係者評価の構成員等】	
*実施月と回数をご記入ください。	組織（委員会）名	評価者（委員）の構成（学校との関係性、所属）
令和4年11月と令和5年2月（2回）	学校運営協議会	町内会長、元小学校校長、PTA会長、元PTA会長、 民生委員

～結果の公表について～

時期	【公表の対象】方法	その他
●2月	【保護者】学校だより	
	【地域】学校だより（回覧版）	
●3月	【市民】学校ホームページ	